

教育費負担と奨学金制度のあり方に関するアンケート調査 (社会調査) 集計結果

2017年5月12日

現在、日本では高校卒業生の7割が大学もしくは専門学校に進学しております。しかし、大学や専門学校では、授業料が年間50万円から150万円程度かかるという現実があります。このような現状の中、本調査では、皆様の教育費負担に対するお考えをお伺いすることを通じて、改善の方策を提言していきたいと考えています。

- 本調査で得られた情報は上記の調査目的以外には一切使用いたしません。また、調査終了後は速やかに廃棄・消去いたしますので、皆さまにご迷惑をおかけすることはありません。
- 本調査は無記名の形式です。お答えいただきましたご回答はすべて統計、的に処理いたします。例えば、「××の質問で〇〇と答えた回答者数は全体の何パーセント」といった集計をいたしますので、個人のお名前やご回答内容等が外部に公表されることはございません。ご心配なくご回答ください。
- 答えにくい設問は空欄でもけっこうです。差し支えない範囲でお答えください。

なお、調査の実施は、60年以上にわたり世論調査、学術調査などを手がけている一般社団法人 中央調査社に委託しました。調査結果を取りまとめる関係上、勝手ながら**2月24日(金)**までに、同封いたしました返信用の封筒で、ご返送ください。ご協力をお願いいたします。

調査の概要

調査期間：2017年1月～2月
 調査方法：青森県・東京都を対象地域とし、住民基本台帳により層化二段階方式で抽出
 送付件数：2,000件 (青森県・東京都 各1,000件)
 回答数・回答率：587件 (青森県296件・東京都291件)・29.4%

※ 本調査では「大学」とは4年制大学を指します(短期大学や大学院、高等専門学校を含めずお考えください)。

A. まず、ご回答いただくあなたご自身のことについてお伺いします(集計結果の分析以外には利用しません)。

F1 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○) N=587 (以下、同じ)

1 男性 43.3% 2 女性 56.7%

F2 あなたの年齢を教えてください。(1つに○)

1 18歳～19歳 1.7% 3 30歳～39歳 12.9% 5 50歳～59歳 18.6% 7 70歳～79歳 14.7%
 2 20歳～29歳 6.1% 4 40歳～49歳 21.0% 6 60歳～69歳 20.4% 8 80歳以上 4.6%

F3 あなたが最後に卒業した(在学中の場合には、現在在学している)学校は、次のどれにあたりますか。
 なお、短大・高専、大学(大学院)を卒業後に専門学校に進学した方は、4～6に○をつけてください。

無回答 0.5%

1 中学校 8.0% 4 短大・高専 9.4% 7 旧制の小学校 0.9% 10 その他 0.2%
 2 高等学校 35.3% 5 大学(学部) 31.2% 8 旧制中学校・高等女学校・実業学校・師範学校 0.5%
 3 専門学校 9.0% 6 大学院 5.1% 9 旧制の高等学校・専門学校・大学・大学院 0.0%

F4 あなたの家族の中に大学進学者・卒業者はいらっしゃいますか(ご自分以外の場合をお答えください)。

(あてはまるものすべてに○) 無回答 2.0%

1 祖父もしくは祖母が進学した 8.9% 5 子どもが進学した 32.5%
 2 父もしくは母が進学した 23.7% 6 孫、ひ孫が進学した 5.6%
 3 兄弟姉妹が進学した 38.8% 7 家族の中に大学進学者はいない 24.7%
 4 夫、または妻が進学した 27.8%

F5 あなたの現在のお仕事についてお尋ねします。あなたのお仕事は、大きく分けて下の中のどれにあたりますか。複数の仕事をお持ちの場合は、主な仕事1つについてお答えください。(1つに〇)

無回答 3.6%

1 事務職 (一般・営業職など)	15.2%	7 農林漁業	3.2%
2 販売職 (小売店主、販売店員、外交員など)	2.7%	8 主婦・主夫 (パートタイム従業者)	11.8%
3 管理職 (課長以上の公務員又は会社員、会社役員など)	8.7%	9 主婦・主夫 (無職の)	16.5%
4 専門的・技術的職業 (教員、医師、技術者、作家など)	15.0%	10 学生	2.9%
5 サービス職 (理美容師、店員、保安関係従業者など)	6.3%	11 引退 (主婦・主夫を除く)	7.8%
6 現業職 (大工、修理工、生産工程作業員など)	4.9%	12 失業 (主婦・主夫を除く)	1.4%

B. 教育費の現状やその負担のあり方について、あなたのお考えをお伺いします。

Q1 高校卒業後に大学等に進学した場合の教育費の現状について、あなたはどのように思いますか。

(それぞれ1つに〇)

	安い	やや安い	妥当である	やや高い	高い	わからない	無回答
(1) 国立大学の入学料 (1年目のみ払うお金) : 28 万円	8.5	4.6	25.4	22.3	24.2	10.4	4.6
(2) 国立大学の年間授業料 : 54 万円	7.3	3.4	25.9	24.4	24.5	9.7	4.8
(3) 私立大学・短大の入学料 : 25 万円	5.6	3.4	29.6	19.9	24.2	10.4	6.8
(4) 私立大学 (文系) の年間平均授業料 : 75 万円	0.9	2.6	13.6	25.2	43.6	9.2	4.9
(5) 私立大学 (理系) の年間平均授業料 : 105 万円	0.7	2.2	11.2	16.5	55.1	9.0	5.1
(6) 私立短期大学の年間平均授業料 : 70 万円	0.2	2.2	10.4	24.4	47.7	10.1	5.1
(7) 私立専門学校の年間平均授業料 : 70 万円	0.2	1.9	10.9	23.5	48.7	9.7	5.1

単位 (%)

Q2 教育費負担の在り方に関する次のような意見について、あなたはどのように思いますか。(それぞれ1つに〇)

	賛成である	どちらかといえは賛成である	どちらともいえない	どちらかといえは反対である	反対である	無回答
(1) 大学までの学費・授業料は税金で無料とするべきだ。	18.4	17.0	25.9	16.7	18.1	3.9
(2) 大学までの教育費 (学費) は家族・保護者が負担するべきだ。	9.0	22.1	37.8	16.0	10.2	4.8
(3) 大学の学費は、学生が自分で支払う・負担する仕組みにするべきだ。	4.4	9.9	29.6	22.8	28.8	4.4
(4) 大学までの教育費を軽減するためなら、税金を値上げしてもよい。	6.6	14.3	29.6	19.1	26.7	3.6
(5) 国公立大学と私立大学の学費の格差はなくすべきだ。	19.9	21.1	29.6	15.0	10.7	3.6
(6) 大学を無料にするより、幼稚園・保育園を無料にするべきだ。	36.5	21.3	27.3	4.6	6.5	3.9
(7) 国立大学も私立大学のように、大学・学部別で学費を変えるべきだ。	15.0	25.2	36.3	8.7	10.6	4.3
(8) 都市部在住者の税金で、地方在住者の教育費負担を軽減するべきだ。	7.0	14.1	39.2	16.5	18.9	4.3
(9) 高所得者や企業に多くの税金をかけて教育費負担を軽減するべきだ。	26.2	28.3	26.4	8.0	8.0	3.1
(10) 祖父母世代から孫への教育資金の贈与を行いやすくするべきだ。	34.9	25.4	29.8	3.6	3.2	3.1

単位 (%)

Q3 教育費負担の在り方に関する次のような意見について、あなたはどのように思いますか。(それぞれ1つに○)

	そう思う	ややそう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	そう思わない	無回答
(1) 大学は行きたい人がいくところなので、その費用は自分で負担するべきだ。	16.0	27.3	20.4	19.8	13.6	2.9
(2) 大学卒業者は、就職機会や給与条件などで利益を得るので、大学進学 の費用は自分で負担するべきだ。	10.4	20.6	28.3	23.0	14.8	2.9
(3) 大学進学者を税金で支援することは、進学しない人に対して不公平だ。	21.0	22.8	19.9	20.6	12.1	3.6
(4) 現在の日本は高卒での就職は厳しいので、大学進学を広く支援するべきだ。	17.0	27.3	27.3	14.7	9.9	3.9
(5) 進学や教育費負担は家族の問題なので、税金で支援するのはおかしい。	11.9	15.0	26.2	21.8	21.5	3.6
(6) 国の財政は赤字で財源はないのだから、教育費支援を行うべきではない。	5.6	8.7	25.7	25.6	30.7	3.7
(7) 大学生は十分勉強していないのだから、税金で支援するのはおかしい。	8.0	17.4	33.4	21.1	15.7	4.4
(8) 大学生の数が多すぎるので、大学生を税金で支援するのは適切ではない。	12.8	18.6	29.8	20.4	14.7	3.7
(9) これまで支援を受けていない世代から見ると不公平なので、今後も大学の 学費を支援するのは適切ではない。	7.2	10.6	25.6	26.6	26.9	3.2
(10) 教育の機会は誰にでも保証されるべきなので、税金で負担軽減するべきだ。	23.9	23.7	28.3	11.1	9.0	4.1
(11) 貸与奨学金を借りて進学したなら、返済額が数百万円になっても仕方ない。	10.7	18.1	21.3	23.3	23.3	3.2

単位 (%)

Q4 学費や国の奨学金制度の在り方について、あなたは次にあげるA、Bのどちらの考え方に近いですか。
((1) ~ (6) それぞれについて、あてはまる番号1つに○をつけてください)

	< Aの考え方 >					< Bの考え方 >	無 回 答
	A に近い	A に近い どちらか といえ ば	ど ちら か とい え ば B に近い	ど ちら か とい え ば B に近い	B に近い		
(1) 国の奨学金は、多くの学生に少額でも行き渡るようにするほうがよい。	20.8	36.5	25.0	13.3	2.4	国の奨学金は、受けられる学生を選別して、少人数に多額の支援をするほうがよい。	4.4
(2) 国の奨学金は貸与として、卒業後に学生が返済する仕組みがよい。	14.0	31.2	30.3	20.6	3.9	国の奨学金は給付にして、返済しなくともよい制度にするのがよい。	3.9
(3) 国の奨学金は、高い学力や能力がある学生を対象とするべきだ。	16.4	26.2	31.0	22.7	3.7	国の奨学金は、経済的に厳しい家庭であれば、学力にかかわらず誰でも利用できるようにするべきだ。	3.7
(4) 国の奨学金は、学生が安心して勉強できるように、学費だけでなく生活費も含めて支援するべきだ。	10.7	31.5	32.9	21.1	3.7	生活費は、自分で何とかするべきものであり、国の奨学金に頼るのはおかしい。	3.7
(5) 借りた奨学金を返済しない者には、裁判を含め、厳しく取り立てるべきだ。	7.8	16.9	40.7	30.8	3.7	借りた奨学金を返済しない者には、個々の事情にあわせて柔軟に対応するべきだ。	3.7
(6) 国の奨学金は、社会に必要な職業の人材養成を目的とするべきだ。	10.6	18.4	38.3	28.6	4.1	国の奨学金は、誰もが教育を受けられることを目的とするべきだ。	4.1

単位 (%)

C. 現在、税金を用いて大学生等を対象とした給付型奨学金（あとで返済しないでよい奨学金）を新しい制度としてつくるのが国によって検討されています。この給付型奨学金についてあなたのお考えをお伺いします。

Q5 国が、税金を用いて大学生を対象とした給付型奨学金（あとで返済しないでよい奨学金）を新しい制度として作る場合、その仕組みに対する次のような意見についてあなたはどのように思いますか。（それぞれ1つに○）

	賛成である	どちらかといえば賛成である	どちらともいえない	どちらかといえば反対である	反対である	無回答
(1) 対象者を高校での学力が優秀な学生のみに限定する。	14.3	26.1	29.0	14.5	9.4	6.8
(2) 対象者を所得制限等で経済的に困窮している学生のみに限定する。	16.5	39.2	23.0	9.5	4.8	7.0
(3) 対象者を東京大学など難易度の高い大学の学生のみに限定する。	2.4	6.6	21.5	31.5	31.7	6.3
(4) 対象者を選ぶために、希望者に対して学力試験を行い、選抜する。	17.0	30.8	25.6	11.8	8.2	6.6
(5) 対象者は25歳未満など、年齢制限をつけて限定する。	16.5	24.0	27.9	14.1	11.1	6.3
(6) その奨学金は授業料支払にしか使えないなど利用方法を限定する。	30.8	33.6	19.1	5.8	4.8	6.0
(7) 対象者は、卒業後、どのように活躍しているか報告を義務とする。	25.4	28.1	24.9	8.3	7.3	6.0
(8) 対象者は、社会が必要とする特定の職業に就きたい者のみとする。	2.7	9.0	32.2	29.6	20.6	5.8
(9) 対象者は、自宅外から大学に進学する者のみに限定する。	3.9	7.7	33.0	27.1	22.5	5.8
(10) 国公立と私立大学では学費が異なるので、給付金額に差をつける。	16.7	35.1	27.6	7.8	6.5	6.3
(11) 現金を支給する給付型奨学金より、学費の免除・減額の方法がよい。	33.6	36.6	17.9	3.4	2.6	6.0
(12) 対象者は特別に限定せず、誰でも受けられるようにする。	18.6	20.5	26.4	12.9	15.0	6.6
(13) 対象者が、各高校から1名は必ず選ばれるような仕組みとする。	3.2	5.5	32.5	24.0	28.4	6.3
(14) 対象者は、高校が推薦することとして、高校の評価を参考にする。	8.3	27.3	27.4	16.4	14.0	6.6
(15) 対象者が大学入学後にきちんと勉強しているかは常に確認する。	31.5	33.4	21.5	4.3	3.1	6.3

単位 (%)

Q6 給付型奨学金の対象者を決めるにあたって、どのような学生をその対象とするべきだと思いますか。対象者として望ましいと思うものすべてに○をつけてください。

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 高い学力を持つ者 62.9% | 7 福祉施設出身・ひとり親など家庭環境の恵まれない者 73.6% |
| 2 スポーツや芸術で高い能力を持つ者 47.9% | 8 卒業後特定の職業に就職することを誓約した者 14.3% |
| 3 大学院の学生 10.7% | 9 生活保護受給世帯など家庭が経済的に厳しい者 68.7% |
| 4 高校が推薦した者 36.1% | 10 ボランティアや社会福祉など社会貢献を行った者 19.3% |
| 5 身体的、精神的に障害を持つ者 28.3% | 11 東京大学など難易度の高い特定の大学への進学者 9.9% |
| 6 卒業後に地方に居住することを誓約した者 12.1% | 12 その他（具体的に ） 4.9% |

Q7 特定の職業に就職する者（就職した者）を、給付型奨学金の受給対象とする場合、その職業として望ましいと思うものはありますか。望ましいと思うものすべてに○をつけてください。

- | | | | |
|-------------------|--------------------|-----------------|---------------------|
| 1 保育士／幼稚園教員 24.9% | 4 大学教員 10.1% | 7 医師 36.3% | 10 その他 5.5% |
| 2 義務教育の学校教員 19.4% | 5 研究機関の研究者 25.0% | 8 看護・医療職 33.6% | （具体的に ） |
| 3 高校教員 12.8% | 6 介護士／福祉施設職員 29.5% | 9 自衛隊・警察官 16.0% | 11 そのような制度は不要 33.9% |

Q 8 給付型奨学金を新しい制度として作る場合、**その月額**はどのくらいの金額が望ましいと思いますか。
 国立大学の学費（授業料、施設利用費などの合計）が年間約 50 万円、私立大学文系が年間平均約 100 万円、
 理系が年間平均約 150 万円程度である現状を前提に、望ましいと思うものに番号に○をつけてください。
 （それぞれ1つに○）

	1万円未満	1～2万円程度	3万円程度	5万円程度	7万円程度	9万円程度	10万円以上	わからない	そのような制度は不要	無回答
(1) 国立大学の自宅生	3.4	14.5	23.5	21.0	2.7	0.5	3.7	16.5	5.5	8.7
(2) 国立大学の自宅外の学生	0.7	5.1	12.9	24.5	14.3	5.3	8.7	16.4	3.4	8.7
(3) 私立大学（文系）の自宅生	1.7	4.4	17.5	21.3	10.9	7.0	4.9	16.7	6.0	9.5
(4) 私立大学（文系）の自宅外の学生	0.2	1.4	7.2	19.4	15.8	11.9	13.6	16.9	4.6	9.0
(5) 私立大学（理系）の自宅生	1.0	2.7	9.9	17.9	15.7	7.3	14.0	17.0	5.5	9.0
(6) 私立大学（理系）の自宅外の学生	0.2	1.2	3.9	13.6	13.3	10.9	26.7	16.4	4.4	9.4

単位 (%)

D. 日本社会の現状や今後の在り方について、あなたのお考えをお伺いします。

Q 9 日本社会の現状について、あなたは次の意見についてどう思いますか。（それぞれ1つに○）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
(1) 日本は努力すれば報われる社会である。	12.1	26.9	30.0	12.8	11.4	6.8
(2) 日本は都市部と地方の格差が大きく、都市部が有利である。	34.2	35.8	16.7	3.4	4.1	5.8
(3) 日本は学歴社会である。	27.6	42.9	15.3	4.8	3.6	5.8
(4) 日本では有名な大学を卒業すれば就職に有利である。	27.9	41.1	14.8	6.6	4.1	5.5
(5) 日本は、競争が激しい社会である。	14.5	38.8	29.5	7.2	3.6	6.5
(6) 日本では大学を卒業していないと就職が難しい。	14.7	30.0	30.7	12.6	6.5	5.6
(7) 現在の日本には大学や大学生の数が多すぎる。	18.6	21.8	36.1	9.0	8.5	6.0
(8) 授業に限らず学校や大学で学んだことは、将来役に立つ。	22.3	36.6	24.4	7.7	3.4	5.6
(9) 現在の日本では、貧困や経済格差は深刻な問題だ。	35.6	33.2	18.1	5.1	2.2	5.8
(10) 日本の研究者の業績は世界でもトップレベルであると思う。	27.3	38.3	20.1	5.3	2.6	6.5
(11) 10年前と比べて、日本社会は悪くなっている。	22.1	28.4	31.5	8.0	3.9	6.0
(12) 日本は経済的な格差が小さい社会である。	4.1	14.7	25.6	28.4	21.3	6.0
(13) 日本では凶悪な少年犯罪が増加している。	26.1	32.5	19.8	11.1	4.6	6.0
(14) 現在の若者は、甘やかされて育っている。	31.7	32.9	19.9	6.5	3.2	5.8
(15) 日本の学校教育はうまくいっている。	1.5	7.8	34.8	31.5	18.4	6.0
(16) 日本の大学は、学生を成長させて、卒業させている。	1.4	11.9	42.9	23.7	13.6	6.5
(17) 生活する場所を世界中で自由に選べるとしても日本を選ぶ。	33.7	23.3	24.0	6.5	6.3	6.1

単位 (%)

Q10 日本社会の今後の在り方について、あなたは次のことがらをどう思いますか。(それぞれ1つに○)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	無回答
(1) 18歳選挙権にあわせて、18歳を成人とすることは望ましい。	27.4	19.3	20.4	16.0	15.8	1.0
(2) 人口減少への対策として外国人の国内移住を受け入れるべきだ。	7.8	15.3	36.3	20.6	18.1	1.9
(3) 人口は都市部に集中させて効率的な社会にするべきだ。	1.7	2.9	20.4	35.9	37.0	2.0
(4) 税金の使い方は、教育問題よりも年金や医療問題を重視するべきだ。	9.9	14.1	44.6	15.2	14.3	1.9
(5) 医療・福祉・教育を充実させるために消費税を10%に増税するべきだ。	14.5	21.0	31.5	12.4	18.9	1.7
(6) 大学に進学しなくとも、就職して生活できる社会にするべきだ。	40.5	34.6	15.8	4.1	3.1	1.9
(7) 専門的な職業に就くには大学院まで進学が必要となるのは望ましい。	9.5	13.5	35.4	21.6	17.9	2.0
(8) 経済成長や経済発展よりも、生活や時間のゆとりを優先するべきだ。	13.5	27.8	40.5	11.9	4.9	1.4
(9) 東京への一極集中は是正して、国全体の均等な発展を進めるべきだ。	29.1	37.3	22.7	5.6	3.4	1.9
(10) グローバル化が進むので、日本人は英語を話せるようになるべきだ。	37.5	33.7	19.8	3.9	3.9	1.2

単位 (%)

E. 最後に、大学の望ましい学費の在り方について、あなたのお考えをお伺いします。

Q11 大学に入学してから卒業するまでに、大学に支払う学費（入学金や授業料、施設利用費など全ての金額）の総額として、あなたが妥当な金額であろうと考えるのはいくらくらいですか。

	無料	五〇万円程度	一〇〇万円程度	一五〇万円程度	二〇〇万円程度	二五〇万円程度	三〇〇万円程度	三五〇万円程度	四〇〇万円程度	四五〇万円程度	五〇〇万円程度	五五〇万円程度	六〇〇万円程度	六五〇万円以上	わからない	無回答
(1) 国立大学（文系）	11.1	12.3	11.9	8.0	17.4	3.9	5.5	1.4	1.7	0.5	0.3	0.2	0.2	0.2	23.0	2.6
(2) 国立大学（理系）	10.7	8.5	12.6	7.3	11.9	7.3	9.2	1.7	2.0	0.7	1.2	0.3	0.3	0.5	23.2	2.4
(3) 国立大学（医療系）	10.7	4.9	9.5	5.5	10.1	2.9	12.3	2.9	4.9	1.0	3.4	0.3	1.4	2.6	24.9	2.7
(4) 私立大学（理系）	4.8	6.0	9.2	6.3	8.5	6.0	10.4	4.8	6.3	2.6	3.7	0.7	1.2	1.7	25.0	2.9
(5) 私立大学（文系）	4.8	7.8	9.9	7.5	9.9	8.3	9.5	3.2	5.5	1.7	2.2	0.2	0.7	1.4	24.5	2.9
(6) 私立大学（医療系）	5.3	4.1	7.2	4.6	7.0	4.1	7.7	4.4	6.1	2.6	6.3	0.3	3.1	7.2	27.3	2.9

単位 (%)

Q12 日本の教育費や奨学金制度について、お考えがあれば自由にお書きください。

(自由回答欄)

記載数 : 214 件 (36.5%)

ご多用の中、ご協力いただきましてありがとうございます。同封の返信用封筒（切手不要）に封入のうえ、2/24（金）までにご投函いただければ幸いです。